

ジベレリン処理によるなし長寿の熟期促進

1 試験のねらい

芳賀，宇都宮，鹿沼等の県央地帯での長寿の熟期は，8月上～中旬で市場価格の高い8月の盆前に出荷を終了させることは困難である。そこで，本試験では，ジベレリン処理によって熟期促進を図り，県央地帯での盆前完全収穫の可能性を昭和57年に検討した。

2 試験方法

農試ほ場の長寿（高接ぎ7年生）を2樹供試し，1樹につき4本の主枝のうち2本の主枝をジベレリン処理区，他の2本を対照区（無処理区）とし2反復とした。処理は，満開後35日に市販のジベレリンペーストを用いて，1果当たり現物20～30mgを果梗の周囲を被りように指で塗布した。処理直前に仕上げ摘果を行った。調査方法として，収穫は果色を地色用カラーチャートで判定し，収穫果実について果重及び品質を調査した。

3 試験結果及び考察

ジベレリン処理による長寿の熟期促進効果を表-1に示した。満開後35日にジベレリンペーストを果梗へ塗布処理することによって果実の成熟が促進され，収穫始めて6日早い8月2日，収穫盛りで7日早い8月6日であった。収穫終りは，無処理と同じであったが，図-1に累積収穫率を示すとおり，97%の果実は盆前に収穫することができた。

また，表-2に収穫時の平均果重及び果実品質を示した。ジベレリン処理によって，1果平均重は26.9gとなり，果実品質については，硬度が5.0ポンド，糖度が10.2%，pHが4.99でいづれも無処理と差がなかった。このため，ジベレリン処理は，果実の肥大及び果実品質に悪影響を及ぼすことなく，熟期を促進するものと判断される。

農試の平年の収穫期は，始めが8月13日，盛りが8月17日，終りが8月23日である。昭和57年は，収穫期が早い年で無処理の収穫盛りが8月13日であったが，遅い年の盛りは8月23日ごろになる。農試の位置は，県央地帯の中でも宇都宮の平石，城山地区と比べるとなしの生育が平年で3日程度遅い。ジベレリン処理により収穫盛りが7日程度早まるので，芳賀，宇都宮，鹿沼等の県央地帯で成熟が遅い年でもほとんどの果実が盆前に収穫可能と考えられる。

ジベレリン処理を行う場合には，果実の肥大及び処理作業能率向上のために，予め摘果を完了さ

表-1 ジベレリン処理による長寿の熟期促進効果

試験区	収穫期 月・日		
	始	盛	終
ジベレリン処理	8.2	8.6	8.17
無処理	8.8	8.13	8.17

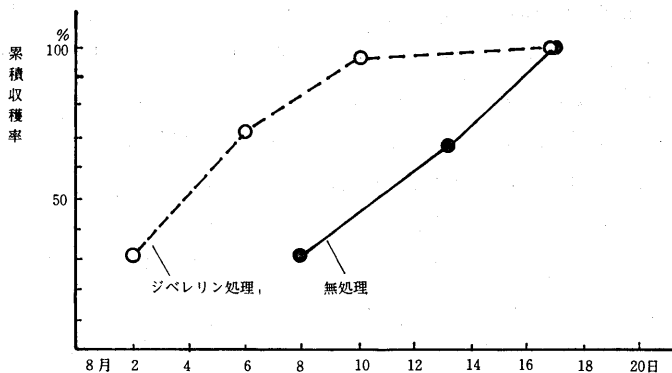


図-1 ジベレリン処理による長寿の累積収穫率の推移

表-2 平均果重及び果実品質

試験区	1果平均重 g	果実品質		
		硬度ポンド	糖度%	pH
ジベレリン処理	269	5.0	10.2	4.99
無処理	272	5.3	10.6	4.90

せておく必要がある。ジベレリン処理の方法は、果梗の周囲に指で塗布するのが良く、ジベレリンペーストが果実に付着すると果面が汚れるので、果実よりは果台に近い果梗に塗布する方が安全である。ジベレリンペーストの量は、20～30mg程度で適量を使用することが良い。

また、長寿は、品種特性として収穫適期が地色用カラーチャートで3.5～4のやや青味の残った時期である。過熟果にはみつ症状などの果肉障害が発生しやすいので、特にジベレリン処理栽培では熟期が早まることから、適期に収穫するための注意が必要である。

4 成果の要約

県央地帯でのなし長寿のジベレリン処理による熟期促進効果を検討した。その結果、満開後30～40日にジベレリンペーストを1果当たり20～30mg果梗に指で塗布することによって、成熟が促進されて、収穫盛りで約7日ほど早まり、県央地帯でも8月盆前出荷が可能である。

(担当者 田中敏夫 金子友昭)